續膝栗毛八編 下

遠13
1164
39

へ13
1164
39

海野信盛蔵書

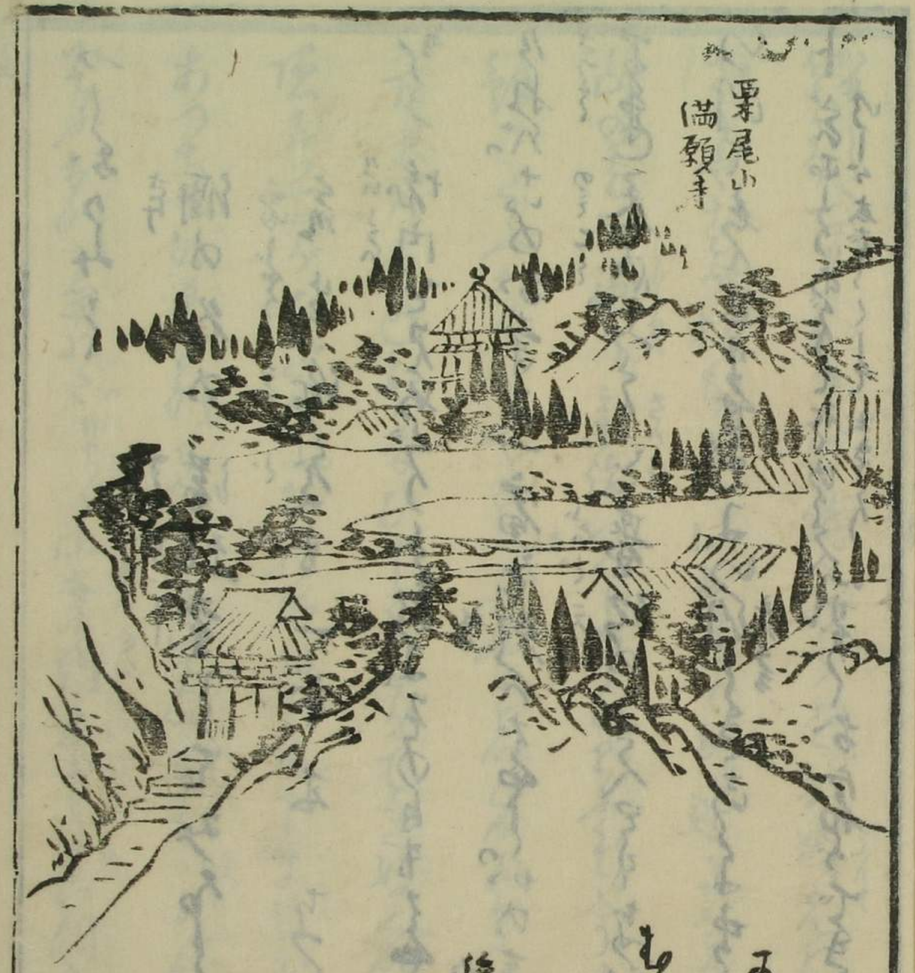
信濃国 東都 十返舎一九 編

信州栗尾山満願寺八大同二年田村将軍の宮基ホ

うを信州栗尾山満願寺八大同二年田村将軍の宮基ホ

ーそうぞお堂千ぢ観音ぞうそ二十六堂曼荼ら

ぐうぐうぐう



栗尾山
隘願寺

山下
の景
もう
重

備後名所

有明山

贊吉今集

行くうみ
あくる夕
さむく
一くだく
て

あけの

吉
酒の名の
滝形寺と
流生
添寺も一本
かくて場内をひめぐりまゐる。
名ばかりなのお寺は一宿を形へだやしかの医者をもとむる。
まゐる天王寺ころを幸ひのうちに
いのちをまもるよもぎ入
トごぜうあらてねのうへ
うつかまだくしてお名ができるく

ざりやさとが松をうけおくとお連よろうそして出掌
山のをを乗り、急指いそやかる。この夢結中で。
駒りうえおぐうやを一あをとる。
方丈の玄関おうをひけてきぬんでけむりよ
頂戴ありがおぎるよ。それでおしまゐ。
おうちへ注をさ引せてくまさんまくく医者が
そよおれ主命れさかりく出安寺門まで

ト百文をとこ〳〵とうりて。のんきさうに
のうきに成て。前山の原家をうり。かりひのあるまそのうへ
おとそうりうり。小屋もきり組のふき
のんきさうにくらして。身上あまりのあれうさに
只今ハ永つとがをうりくらしよくなり
筆ぶしやう者でおざる。又ハ
老よくハせこのコレ小僧くんをお茶と出さあらモシ
で。ござる〳〵小八おまつ殿がおるかひやを
コウ
法ばさん。ちんでもあるくらんせんぞ。ぶつとろ
知りやうが変ふちやうと〳〵つきあまり新つきごろろん。ドー
お孫ハそちんぜませ。ヤリ
小八ソリヤ孫のうへ下おやア孫でもせわりものと〳〵まニまいでだいな
うりと。コリヤどこ〳〵であいそく。ヤア ちまこへ
あまりん雪でもかぶろう。膝がつくもひの
なろう大きはうもちんでおあ〳〵ぞ〳〵〳〵
やまと〳〵ちんちろ〳〵痛をまがるとうりんでん。なまんも痛

でおくぞ。その御(おまへ)様(さま)へ金(かね)を五(ご)両(りやう)貸(かし)てやつたのを。天窓(あたま)へのがして置(おき)て。鼻(はな)ぐいぐいと捻(ねぢ)つて。脳(のう)ずきを入(いれ)ちやるぞ。ちよつと死(しね)まで入(いれ)てやるぞ。ちよつと死(しね)まで入(いれ)てやるぞ。ちよつと死(しね)まで入(いれ)て

ざつざつせんで。こまさんせんまつ
こつちへとまるつもり トあのさろーてがんこともるひ。方丈(ほうじょう)。
きうどのそ。ふろうもやがてくるへ 男どもぜんとうちまうをするしふたりども
ござるよ
我(わ)い方丈よちくに。お供まうとがおぼつかで。道中が気(き)
きうんでおかんやきまん。務(つとめ)よかうげ さんせんまつ。こりや
小僧(こぞう)く。ちよそとで茶(ちや)でも若(わか)ちてをせうぞ
よかうぞ。今よあんちうこ夜食(やしょく)をよこさぞよ。座(ざ)をとり
てしまんぜそ。それもかうぞ(お)ござれ。こつへこちおよこるぞ。こつく

(ぜんさよ)
納戸(なんど)の座敷(ざしき)の障子(しやうじ)よまをとけるな。あのまんぢうふへ
ぞ
毒(どく)がある。ちやくさるよ。志(こころざし)ぬわるふ。かるうぞくふなこと。
次(つぎ)の間(ま)へ茶(ちや)ふるうてこりやまつ
イこまあこへトいのひまて(ゆ)。おやゆ。おやゆ。
さもうろうござるへうと
いろんてうち毒(どく)くおくの
まちがうろうく出りけて。ぶつせんよ
ちやくおこしてうんなせんよ。ユウ
とつへ来てあうう福(ふく)へ
らいてあうう。ぶつ
やをまもろ(う)
(ぜんさよ)
(たくさん)
(さむ)
(ぜんさよ)
(ぜんさよ)

嫁ぢる。コリヤめでたいそうよめかぢ
かぢとやら。話らるゞうめくすぢ
一さんとハ知人ぢそうでひらめぐるハよかろうそんな
やうなうかゝ。山茶雑をかぢして。あとで
晩と出るけやう。爰ハよこめ
あるちよめとこれて来てうえる宅よくくをたりやアがる。
一面小僧さんおもひとつあげやう一ニまりれいやぢく

嫁ぢる。コリヤめでたいそうよめかぢ
かぢとやら。話らるゞうめくすぢ
一さんとハ知人ぢそうでひらめぐるハよかろうそんな
やうなうかゝ。山茶雑をかぢして。あとで
晩と出るけやう。爰ハよこめ
あるちよめとこれて来てうえる宅よくくをたりやアがる。
一面小僧さんおもひとつあげやう一ニまりれいやぢく
いゝえもうんぢせめてきやアがつこ。
さんぐはなアがつこ。
一番小僧のかぢとのぢあるそうして玉味僧のろくて
重味僧のかぢとのぢ。爰ハよこめ
一ぢやアちんぢろう。爰ハよこめ
一ぢやアちんぢろう。爰ハよこめ
一ぢやアちんぢろう。爰ハよこめ
一ぢやアちんぢろう。爰ハよこめ
一ぢやアちんぢろう。爰ハよこめ
一ぢやアちんぢろう。爰ハよこめ
一ぢやアちんぢろう。爰ハよこめ
一ぢやアちんぢろう。爰ハよこめ

ばかりそのくせ人湯がよくつ。お小僧さん。茶をのみて
くるせへ（ばか）ねいやつてくるがある。さあ
ちうがあると。いひるさあとでやア極くへまんぢうへ納戸（なんど）の
おくへまきてあるがの。毒（どく）まんぢうへ陰（かげ）へまきてくふてしまきまちる
まちとげるへ陰へ陽（ひなた）へまきて陽（ひなた）へまきてくふてしまきまちる
ぞるこのごさ。毒があつて。ト。ゆうてゐるものふこう。交（まぜ）かへて
まてこんせちよせへ。ト。ゆうてゐるものふこう。交（まぜ）かへて
ゐるのぢ。時よ茶碗がゐるぞト。あるはあるらやれのやん
をしてぐらんのちうづきよかるとコレくその茶碗へよこせまり。原来
さ自がた事のちやらんぐんてゐるのをこんせまをト
手のらやうをふろ。そうやちやとそうかくとぐうとのまんぢうを。大きよくふ
ゐてうかくく。まんぢうがくふてかごづりやう。ト小僧さん。ちよ

がひとりさー[illegible]おうてきござるぢゃ。三人組(さんにんぐみ)で[illegible]
よう。(ござる)ござるせへ[illegible]ござれ。(ござれ)[illegible]おいらぶあさ
トまんぢうのてごとられてあまりくやしさに小ぞうぞをとりのてうきだせ(とりのけて)(うきだせ)ござれ
(小僧)まんぢうを。こんるられてあまりてござれ(ござれ)
ませど。ワアイ(ワアイ)(小八)ちがもきづけ(ひっかけ)
をしてやろう。(やろう)ユウ(ゆう)[illegible]今のを茶碗をとられてくるござれ(ござれ)
ござく(ござく)トかのらくやきのちゃわんをとられてしまつけ(とられて)(小僧)(とられて)
まつろうちうろうろうちうろうろうろ

さるこりんのおやうぢんよ。爰でまつをこうやーこうツイ茶
碗のよへ投げてよこんるよおちろーこりんでがざうやさこうう。お
小ぢうさるがっ。ころア仕源おさるのお結髪の茶碗を破て。
こんな訳が有へこそも生てゐねーと。泣ーるさる。ころ
もまるさんるよお世話よ頼うこう。西国巡礼も有へお白
さよ新がおいさをやさこぬこう。ころのもっ。ちんたのけやし。
ふこうとも。笑ふやきこめやーこう。山の中で舟を投る川か
ちーっ。着と縁るハ縁よが去れぞ。こりやされん。おちこぼう

まんぢうよ毒がありて。ころ死ぬことを。ホヽヽヽ

霍尾山
松尾寺
薬師

霊地
信州木曽
大の尾
和泉

まんぢう(まんぢう)まんぢう一重(ひとへ)。あるまんぢうでも。
なうぞとも云ふ。なうくなうく(なう)
コレお小僧(こぞう)さん。その一重(ひとへ)をもつて
こんさよ
こゝへ(こゝ)いやくこれでも。去(さ)る御人
けさや(けさ)ア昨(さく)ばんざうやせぬそう。
ゆきよ
ざうやもと(ざうや)ありや。まるぞ(まるぞ)
ようかん
ようかんでもあるもさう(さう)。そうヤレ(そう)
うん
姉(ねえ)さやアお客(きやく)さんざうと
ゆきよ
きたんぞ(きたんぞ)あんとまあ(きたんぞ)。コリヤ小僧(こぞう)。あの一重(ひとへ)ありや。
ちまき
のでいるんよ。ササヲくぞくひおうおいくでも。そねこん
でいるん(いる)かんぐんでらつてきろ(きろ)
ちまき
ちまきはあんと(あんと)活(い)けるんぞ。おらくのの
ちまき
くひかうかんざ(かんざ)イヤそれよりあの
まきもびくうこ。
まきそうくさそのあまそ
小僧(こぞう)。ちまきの写(うつ)をかんざうのコレ。小僧(こぞう)くヤまざ
こつちの(こつち)。罪(つみ)の移(うつ)つたのぞ。

ちゃんごろう「ちゃんごろうあるかい。
ちゃんごろう「ちゃんごろうあるかい。彼人が。彼もまだひろうく
くそ。いるかい。さそ今のへ孤めが。あがうのかかひよ
かぎへてよの宅ろうおつこもまど
とうぢうぶもごうけごそ。ま
うも孤へまとこのてひうそ。おいうとく。なんの
あくのまんぢうが。六ざこもよめうことものを。よめ〳〵うさごし
出さごともいてとごふ。おまとこ大変ためよあいせさ。

ちゃんごろう「ちゃんごろうあるかい。孤へいまうんこ毒生あご
はんぢうのあんよしこご枚むうんまて
かう孤そうけごのこあり皮うはうう
おうろへかけごふそりあうろごゆうとてろ孤へいまうんこ毒生あご
よかけいのこをとてごふかごもせんうとうく。やごそのくことうう。かりうるが。
かごうくあうもあけそ。はゆ山う場のこくごく。告こうるよおきさうもてあうこうとうく
おうくのへふとうくいうち孤とのべてを切んと
かこうるさよおけごへふこれこまれていゆ
告山のうりこよさごう。まうと孝へのを屋
ひ勝あのまうう孤そ。ゑうよく
まさうろうごうれを
孤孤ろへ。あうで田村の猪塚

千の矢さえ立ちくるあきる雨

そこらう小岩(こいわ)巌(いは)どもの
何(なふ)某のようもある。蝶(てふ)蛛(ちよ)あそこ今を法(のり)
蝶(てふ)あそこ今を法(のり)蓑(みの)大根(だいこん)

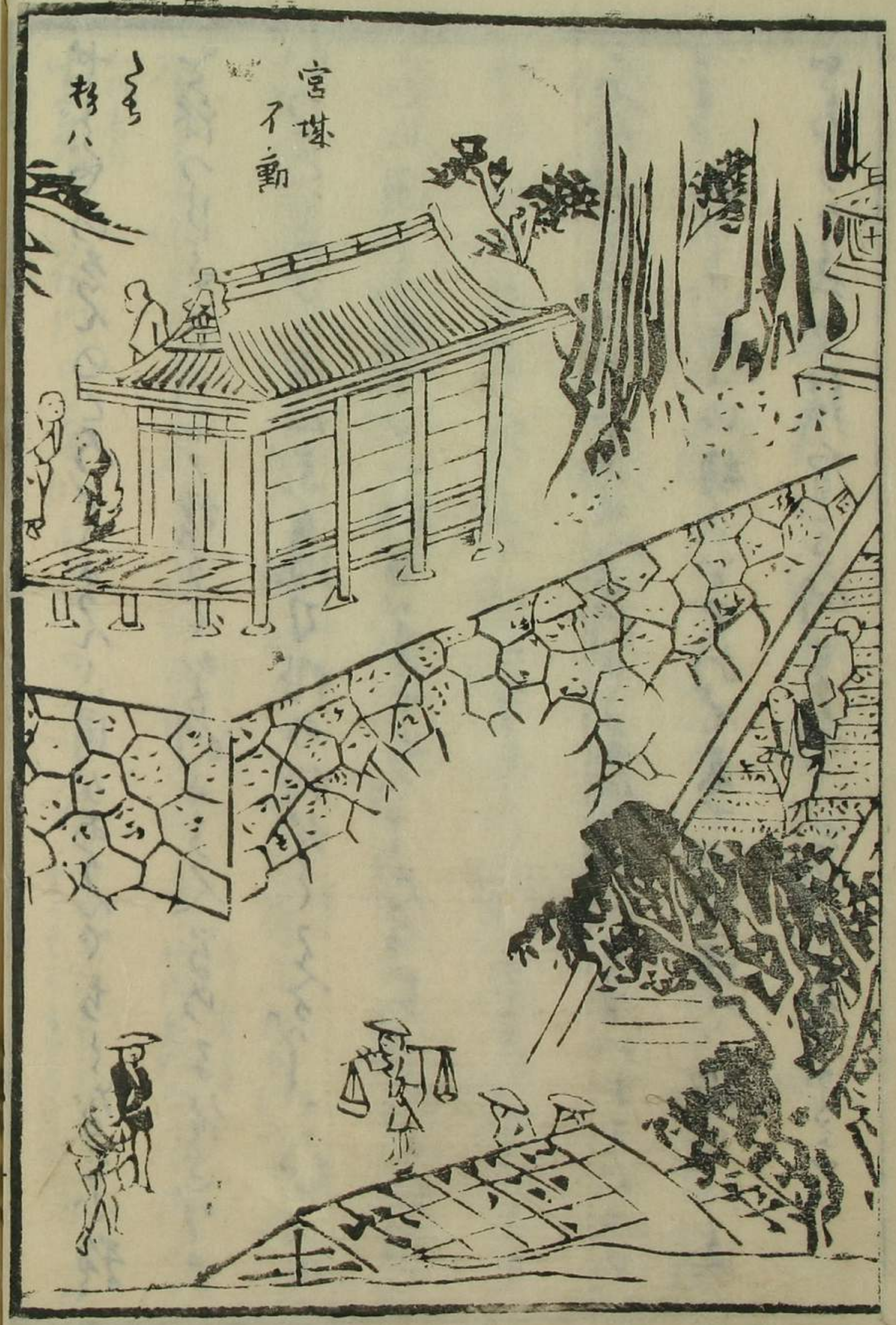
そのように
くのこえや
ちまちう葬(とむら)

ひて雨もやこそ
ぬ。胡蝶(こてふ)をこそ有ふあれつ。ゆく
ひとよ。斗(ばか)のうさぎ山の蝶(てふ)を
ふ。谷川のきかもうふ
きこそう

せどやのろんのころ〳〵ちんぐこ同(どう)があんでちゝ〳〵ぎこ小鳥
を称(しょう)づしさく〳〵イヤア結(ゆ)うくかりのようん人
いづまこそでも山家育。刀(かたな)作の作(さく)
岩の間う〳〵雛子(ひなこ)が一羽るぎこそう。アレ
晩の海を着てらをうり八十二
えひりうう。小八まめへこ
コリャ〳〵おのよ。向よの雛(ひな)をこ
やろう〳〵残(のこ)こ

宮城
不動

杉八



利根の
川水に
うつる
日光の山

信州相
貢おさた
九

かのまじかの川へまちうてござんのきじをころそ
するときじとは申ころのあることころころきげる男ありまり

あぜそのをるとこめてのくひろふのござらう。りのころくげござ
男
ころへインネうらうがころ今。此の後拾でふりこのござよ。よこせのちや
小八
へだろアのうきるがうりころ。ございこ
りまうりちりてあつこのござ。ころも旅人男ちぎれこあるる。
よこせのちやア小八ヤヤ後。よこせこアふそ人ありぶうふそれのふ
おぐんごろアあるめくが。ろうりまうるこそ山の中の猪をしが
ころうころりのくべだろるつくり今トくえんくこれころりのよ
ころひきそうけてやふの

以上を読んでいるとまもひげむやそーやくそ
そ。あいくがうやうねをひろさげて。こんくまでうけきそう
いうふう。かんよふをそうさせとくもちぶふ
おいせそやそりちやアトりひまぶ大の男へおんぶくそ
小八へアくまつるりくきるるとろ人そ
終拾のあるりこふがあるやろ。此のちもるれてまる
のをひろりこのござ。ころぶりちも拾ふがあるそこで拾一
の了。外でも出るとむうふ。
こちぶりふそ終拾でうりてそる。

そのくらゐは出来ませう。ナニ
久男 よかつたらやつて
をこんでごらん。サアをこよ
あんまりちんく男 そんぶ
こんなでかぶりやあさく
泥ぺちやんの泥さんがいまも
父を持ふくせ男 おとこ
よくお上バ。生てう仕玉をお
ぎりくごう程へるを。うりいもぢんおいらのちゝがるりくく
錢炮の団あてり 鉄砲 団扇 あふぎ
ちちうのあてのはちへ をづれて
古のるより。松尾へうる
山石ごん。ゆくよそうそう
酒の名の 鬼のおりくこゝろとして
下戸のそそ 飲 完 ぎ でるく

こまや　　ふく　　ふる　　まつを
そこより古厩村霍尾山。松尾寺の茶湯ありて。
みうごぎょくえんりう　　とうそう
山ゆりを。玉拍手の流觴の後。
ういき　　ぞくぞく　　しゃりょう
の笠基のより。當麻のそばいと珍物ふるまひ
さてかくありひやくまをれだ
幸い　　やくし　　みまへ
抄子より薬師御前ありがたく
人をさそくいせ　　おもふ　　ちひろ
ぬくてる夜ふけこ巡行して。供當のあより。並松の間を
ゆく。兄妹つのみより。山ふかよりきたりゆきて嶺
いはお　　せきだう　　ひやくしゃく　　ふる
さる出厳のよう。石仏の石像と安んじる雨あうる塔
ふる
石剣の門あり。茶屋あるをさるふと。夜よ三寺一チト
ほめんなせへ。モレおめんのそこよい。汲がありやもう。
名ものがたぐーテ。犬のさらいぬ
那犬のようさげがなぜそうらい
多ん汲がきうるんもんで。うまもり白川の川ハのかんあ人
よー小去よう。時よ雑の雑物をもてーもりくる川て
まつ。モレ也ふもの。雪降をちとかしてうるせへ

ゐて　ゐるりのうへ　ごこふあるどーア。
ぜんをあどん。せんちいどこよ　雪隠
山へありていろせへて。ごこよおろ　味噌
あとさん　せへつる　ぶあ　ぐあ
柳へ入るとこへア　せんちのまんうへ
おろて　こよ。せんちいきんゆあろまで　脊戸　せど
もうあるどーアあ　うるいんて　ア　せうよ　ナトルめん

ゐる　せろちんのむしろ戸をおけてぜんぜ
ゐるまいるる　ゐるりの　ゐるて　せろちんのかうそう
ぜんぜんぜん

高瀬川

…て。何でも雨でぶざ…ハアきこえぬが月夜のよう
ものてある。おうあるぐる…
子があるこざ。これちゃハ雨
雪降の間。服揺のあるて…
この人
此もんでハ。なんぞの時雪降…
ありがとうございました。先…
ハヤあるも吉と縁。百…
かう引あゆをくせること…

きこえていのうちゃア…
くんちゃ…ト話…
吉のおうハかのごてかうゆて。女の…
家よこりう。引女ゑて今るまとうの…
ちぐいるハこの別家ゑう。此よぼぎ…
まゆかまされて。タベどざろちんのご…
ぐうるをうう。やごてこの…
立出て。お彩山間生院なる…
時雨。お彩の縁より…
ゆう洗…
ゆう洗をよう。…迎の…
ぐいう
高地ゆて。縁より…

おのれをみやしろの中庭
まとうう。此田の宿よ歩るて多勝てこゞろ
ゆくよ。そる激しあまらよこゞ出。てをおまうて。おゞるく此
田の所まらうぺまゞ日ハそれ大所宿まで六
よゞのそゞくよう。此ハ宿とかくちんとて。我ゝと
おやのかゞる。とよう。ろちゃ。言えらくいくりゞゞ。
人うそぶふゞ。おゝみゃそ孫やゞやのハイおとめ中ませゞゞ

ちくく内まよ込のようんがあ川て。あゝうまくからゞ。
そまこまよ客へ。ふまゞ川てあゞんこちん二陪でも
よからゞろへまこゞでもいうう。あこのくや中ゝをへそん
ぐうおくあやませぞ。こりゃ倍をねゞろ。待をあうい川
せる。湯でもあでも。まゝ
うんでうくうも。あくとあうひあゞるへサアくいち川ちゃアト川ちゃ
あんるゝまる。こゞう六ゝ中ゞうの。ぐんぶゃもきまよ。うう六男ひうう。のりの
こゝき。ぜんぐくぐうんをひうゞイ。孫ねうしを。まうまよがおこくて
をゞ
コリヤ 生まこおあゞよゞ。今ゟアーまよ私ゝまゞ。

モシおやさま。まのふだへ。ふさいでござりまして。
きのどくせるふくぐち。おせをだうぞもうでゆるしてと。
おざうせんてくださいまし。ア、ごふでもいゝ。おかまひ
なさるな。今ふろ湯まをしてござりまして。トいひとてをやぢんと
金ぬきうしろ男ハさうもねどのものうりと
うびとうせぎて。あるくあるきうり。アイお約人ござう
りあんどうちうり。アイ雪尾うり。松尾もる。高博へうち
志ゐこゝそこゝよくこそ。おそゐへ名ごでぎりやまこゝふ
ざうとおかのやさ。ゐちもと江戸の前髪の門人で。

奴多丸とうりのでも。山ろうう面白へまの外てありやもぢ。
モシおやふ。おうふこそぶあるやもぢ。コリヤ江戸へおなるさ外て。
さもう一のうち行ぶ。今秋こゝ
ンレおめへぐぶ。とうへあり外てまちまるとれ。さふで外うう
とうそ女のまふ外ぬ。ひとひぐち
ぬ居中ころう。あまふ外山ま色の謝楷の宇通で。今夜の仲人
イヤ山ろうう大変の降ぎで。今秋嫁入ていくまふ。ゐちが重うぐぶ。
姫のひき眉とつけてあげてまろと。杉まて

おやそうそう。おりんおばやアおぎょうやせんそこいのへおりろく。
まあまあ
ぶつぶつ娘どもだくわのごの一今ようさんろうせんそうだ」こそ大
へん
変なあだそうで。兄のふりん。尻が二宗門で。七八号へおりやきと。
きゅうま
トいえるのちへおきゃくさんへ。湯よおざっせんまし。ドドく
ゆ
姫性と洋足いさそうっトもうへ
そのく
ちゃぢのへせんせんく。ちゃくとまてくさんへ
そまぢ
ちゃぢのへせんせんく。ちゃくとまてくさんへ
ちゃ

まさ「はて。ねがてあげませぬどころかだんだんよわりこみる。
うねとこのままなんでも。りよくができつゝアいたまでよかろうと。ん
てこまさん「ちくちくちくちくがよくでたってよ。
計合ざ。冬ごごく泳がてぎるよるとだ。サムくなんせん。
十りくれをとこのくまをへドレくつゝちぐ安心してあげやせう。
ヤア大変ち地震だ眉毛をそろうぬりなくしてよかつた。
そろ〳〵けんそうぐ大変ぐるくるのこと。
そりで。まんそと同のやうな地震でおざる。

あまぶまりそもへ。さ〳〵ち同のうへよおろうこそらぶ
よかろう〳〵そんおやアがよ。ふるんでおるアヨツト変でり称。
ソレ〳〵カムロせんよく出まさ。ニア右の眉ん大変でりつぶひぶうの
眉へ。ごうかきやせう。あろうちんなごやでよ。ふりこむろう
引ぱるアおろこぶみまるのへあんしまぶら。ニア出生ま毎。一ロ
ぶくあぐりまさんへイヤコレまぐよふぶうのかうをもかんて
こまさん。みぎろへだろうまんもそうのそ。ひよりと出生ぶ。大変
ちろよ。ヨをあてあまつこそ

うけっぴくきませどそらみづっ
あんご。花のひっくとさくらふうんごんて。ねうのひまもせど。仲
人や有のはしまも。うっぴかへ。さけ半也ごとく可て。さけて
こまるりんう。あのふくへ。りっぴゃ。あんこいろごよかっ
だく　トゆごをまりいろくかんごてしかっこころへこのさふ百」のかがうきうへを
布ふくるよい半ひっうへいそーそふはせいくらってゆけもきこの
いっかんいえて。ロー。ふりくさ来半也そく。あもひまてこもり
ても。あんごのかごのとう。あそく。今

させまへんでした。さうなれとこんぐるりんぐるりんひるまでもとんでゐました。そのあひだにはまたいろいろのことがありました。

ぶんぶんこがねむしがやつてきてぶんぶんうなりながらとまつたり。

ちやあいろのちやあいろのちやあいろのはねをもつたてふちやんがひらひらとんでゐたり。

このあたりでうまれたあんのこんざぶろうがやつてきてぶんぶんうなりながらとまつたり。

やぶくちのひまつこどもがやつてきてはなをほじくつたり。

ちやんちやんぼうがやつてきてはなをほじくつたり。

そうこうしてゐるまにおひさまはいつしかにしのほうへおちてゆきました。

そうこうしてゐるまにおひさまはいつしかにしのほうへおちてゆきました。

きやあとよこせちやあとはねをとよこせちやあとはねをとよこせちやあとはねを

ゴザノ　モノテイクレンカ。トテモアルヘヤ。宝暦
フクノウチヨウヌグンガアルトイクレンカ。ヨウ　ヨウ　ヨウ　

ゆうべをぐら。或村よりもうけくるしまん
のわかものどもおぜんとうけまうこと。ゆうべんとうちや
ぜをうそをもうもうの張人ほのぼのとしてきくく
ちゃんおいでかいやめがふくとうのはくのでおざるア
張人ヤヨ病いぬるみる。ソリヤきみのようにふかへぞ。
コリヤありさまさ穴いる張人ワアイ〳〵ア茶あるこをもる。モシおまんどうも。
そとる本へもとのがらくせ。ドラ〳〵ア
ト門又ほのもの大ぜいのケけあい〳〵ア茶もどく
張人ワアイ〳〵ア茶あるこをもる。モシおまんどうも。
そとる本へもとのがらくせ。ドラ〳〵ア
ト門又ほのもの大ぜいのケけあい〳〵ア茶もどく

旅人くろくてあるうのねのまへうのかぶるとまうはさぎもてくのかけ
イーるまうまうはいくまうへはるこれへるうはいくまうへはるこれへるうはいくまうへはるこれへる

ぐろのうだうくーんがなぞといまやせう「サア今なべるわんこそうよ事ぞく。まごもハあげていけうちゃァ
トヌさへぎろ此ぞろくあうさまのくろうけあるのもうろ此すかのぐも加乃出「ちかぐうがうのそんみ出ーをろてきうけうぐさぐまぞきとハ本のやうに「目ーくー脳太兵。ぐめちゃ今。ふんうくう
ぞーの。ろうさをヌそみーァ「と中海いぬげ。ふんぐーとそるるめ
久ぺコリヤ合島ぐいう狼人「そんでーもアレアきろめせ。きもあいめ
めん仙きもちぐんで。でめ金金玉とあんぽーでぐるく。まんて
あーくァ。ヤあめちんくうせろハく「トちぐいそーいろて「ーリヤうぬろ

ろのはくぐ「！餐ひげとろうそぐーまぞろ「おーろ
ろけるろぐさへるるりく。でえき「ろ
あろこそで。えきんこるそぐりく「ーリー
るうこアりアア年遠でぜきうアぁ。むうくくまよろひはくかん
ぐんて。俄名を商売しいよちゃ「ア子ちんのろうさ
はまう移人「トまのうろうりかうろ「トまをあいて「ア子
他をまゃァぐる「トこびるる始「ーリ「ろ「ろ
をー「ーくーさんぐあよまあせ「ーリ
ろうをまそ「ーあうとくー「ーリいんまーぬ。るまとまやァぐろ

Vežaška

36
D